

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース／新
見 員子

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

- ① 学生が教師として児童生徒の前に立ち学級経営や組織の一員として学校運営を行うための実践力を身に付けさせられるような授業を行いたい。
- ② グループワークや演習、ロールプレイを取り入れ、実践力、即戦力を身に付けさせる。
- ③ 授業のふりかえりや自己評価等を行うなど多面的な評価につながるよう工夫したい。

2. 点検・評価

- ① 教員を目指す学生に対し、学校現場での実践に基づいた経験知や実践知を授業の中で、できるだけ多く伝えるよう心がけた。
- ② 講義ではパワーポイントの使用やプリントの配布等を行い、わかりやすい授業を心がけた。また、講義形式にとどまらず、人数に応じて、グループワークやロールプレイ、グループディスカッション等の手法を用い、学生の学ぶ意欲や理解を高めた。
- ③ レポートや毎回の授業の振り返り、学生自身の自己評価等を行い、多面的な評価を心がけた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① 学生との信頼関係を築き、悩みや進路などの相談に親身になって応じる。
- ② 臨床心理士養成に向けて、授業やスーパーヴィジョン等を通してカウンセリングや教育相談に関する基礎知識と技能を習得させる。
- ③ 学校現場での経験や実践をふまえながら、教員を目指す学生に対して、教師としての使命感や倫理感、教育の実際を習得させると共に実践力を身に付けさせる。

2. 点検・評価

- ① 日頃から学生との信頼関係を構築し、学生の進路や悩みなど多岐にわたる相談に対し、時間を問わず親身になって応じた。
- ② スーパーバイズでは、ケースの見立てやアセスメント、面接の知識や技能を習得させるため個別に対応した。また、インテークを行う際は学生を同席させ面接の実際を学ばせることを通してカウンセラーとしての訓練を行った。
- ③ 授業をはじめさまざまな機会において、教師としての資質についてディスカッションを行ったり講話を行ったりした。また、教員採用試験に向けての面接指導や小論文指導、模擬授業の指導を行った。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ① 子どもたちが示す問題行動の理解と支援の在り方を研究する。
- ② スクールカウンセリングの在り方や課題について実践を通して検証を行う。
- ③ 学生が行う適応指導教室での実習における成果と課題を明らかにする。

2. 点検・評価

- ① 心理・教育相談室やスクールカウンセリングでの事例を通して、児童生徒が示すさまざまな問題への理解を深めると共に支援の在り方を検討を行っている。
- ② 附属中学校でのスクールカウンセリングを通して、子どもや保護者支援、教員へのコンサルテーションの在り方を検討した。
- ③ 学生の適応指導教室自習のスーパーバイズを行い、成果と課題を検証している。また、それぞれの適応指導教室へのインタビューも行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 心理・教育相談室における相談業務の充実を図る。
- ② 専門委員会や専門部会の委員として、積極的に大学運営に参画する。

2. 点検・評価

- ① 本学心理・教育相談室に来られる相談者の希望や要望にはできるだけ誠意をもって応え、来談者の支援を心がけた。相談室のインテークを40ケース担当した。幅広く広く地域貢献を行うために、新たにパンフレットを作成し広報を行った。
- ② 委員会や専門部会、コース会議に毎回参加し、大学運営に参画した。
- ③ 「免許更新制高度化のための調査研究事業」の調査・研究、報告書作成に参画した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ① 附属中学校でのスクールカウンセリングを通して、生徒や保護者、教師への支援を行う。
- ② 適応指導教室で実習を行う学生への指導を通して、適応指導教室への支援を行うと共に連携を図る。
- ③ 実地教育専門部員として地域の学校との連携を図る。

2. 点検・評価

- ① 月3回、附属中学校においてスクールカウンセリングを行い、生徒や保護者へのカウンセリング、教員へのコンサルテーションなどの支援を行った。
- ② 県内4カ所の適応指導教室と学内設置の適応指導教室との連絡調整を図りながら、不登校の児童・生徒支援を行った。また、事例検討会に参加し、スーパーバイズを行った。
- ③ 「精神疾患の養育者に対する臨床心理士同伴訪問支援とワークショップ」の事業において、保健師と共に家庭訪問を行い地域の子育て支援に携わった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 大学院への受験生確保にむけて、大学院での学びに興味・関心を抱いている知人に、大学説明を行い個別に対応した。